

湘南の歴史街道を行く「④京・鎌倉往還」 解説

2022年7月31日 池内・田中

小田原の酒匂宿から鎌倉に至る道がはっきりしない。現代風に言えば湘南の道は砂地が多く、また引地川と境川の氾濫による湿地帯が多いから歩行が大変で、道はあちこち変化している。幸い辻堂郷土史研究会の大石静雄氏らによる詳細な検討による道筋が、案内板として辻々に置かれているから、それらを標（しるべ）として歩いて行きたい。

辻堂駅西口の改札を出ると、南東に向かって小さな路地が伸びている、わずか30m先右側の駐車場前に源頼朝落馬地点と表示された案内板がある。頼朝の落馬地点が、ここか否かの論議は、別の機会に譲る。本稿はここから案内板に従って歩いて行く。

案内板は番号①から⑩番までであると言うから、慎重に案内板を頼りにしてゆけば、安心して歩けるだろう。

200m程で市民図書館が見えてくる、敷地内には樹齢百年以上の松の巨木が数本残っている、また辻堂図書館入口信号前にも江戸時代の松の老木が健在だ。信号角の福岡邸の茅葺屋根も最近葺き替えられて、切り妻の屋根が美しい。

県道を渡り、変則四差路に出ると、そこは西の道祖神と言われている辻で、大きな松の根方に道祖神や庚申塔が置かれている。西の町馬頭観音、伏見稲荷、樹齢200年を超える“タブの木”が茂る八幡神社、三又、八森稲荷。この辺りは鉄道が通る以前の辻堂村の中心地であった。明治15年の地図を見ると、村の周りは畑、松、田、水の表示が記述されている。道の両側には桜井邸、植木家、山田家等、蔵の残る屋敷が所どころ健在だ。

八松稲荷社を過ぎた辺りから、辻堂村を外れ湘南新道を越え、ダイハツ自動車会社前の細い道を東に向かう。この角に辻堂郷土史研究会の建てた⑩の案内板が建てられている。歩行者にとってたよりになる案内板だ。古地図を見るとこの辺りは畑で、標高16mの台地を回り込むように道が通っている。台地の南は砂原が迫っている（現在の番地で辻堂東海岸）、京・鎌倉往還らしい古道が、辻堂大平台分譲地を抜けて行く。

引地川に突き当たる手前の家庭菜園内に⑩の案内板があったと言う（田中談）、畑の中を探したが見つからなかった。

道は川を越え、八部公園のテニスコート脇に行くのであるが、現在は大平橋を跨って県道を太陽の家信号で越え、変則五差路に出る。角の大きな屋敷は浅場家で、この家の当主が江戸時代、相模国準四国八十八箇所めぐりの代わりを務める仏像を、各寺に安置した浅場太郎右衛門の家です。この交差点の細い路地を東へ通り抜けると本真寺に至る。藤棚の下がベンチになっているのでトイレ休憩しよう、熱中症予防の為に給水してください。ここがショートコースとロングコースの分岐点です。

本真寺を東に抜けて、小田急線沿いに北に歩いて10分「本鶴沼駅」がショートコースのゴールです（6km）。

ロングコースは、本真寺から踏切を渡って左折、鶴沼三丁目住宅地を抜けて、小林内科医院のある交差点を右折して東へ進む。

鶴沼桜が岡一丁目、二丁目、三丁目と通り抜けると蓮池の前に出ます。この蓮池は江戸時代の境川の名残で、鶴沼高校、江ノ電柳小路駅前を流れていた。道はなおも東へ、江ノ電の踏切を渡ると江の島道に合流する。道が大きく左へ曲がる角が大源太公園で、ここに「砥上の渡し」（石上の渡し）があった、川はここを流れていた。

国道467号線を横切り、現在の境川を上山本橋で渡って左岸を歩く。ミネベヤ工場前の庚申塔を見ながら、新しい住宅地が立ち並ぶ道を辿ると、小さな川が流れてくる。橋の欄干に「馬喰橋」（馬鞍橋）の名が見える。諸説あるが、頼朝がここを通るときに小さな橋を架けたと伝える。現在この辺りはすっかり開発され、2022年春、分譲住宅が立ち並んで昔の風情は失われた。

新屋敷橋前を通り、岩屋観音への道を分けて行くと小さな松が見えてくる「西行見返り松」（西行戻り松）だ。文治2年（1186）8月15日西行は源頼朝に会うために、この道を通った。8月16日の吾妻鏡はこう記す。“庚寅午の刻、西行退出す、しきりに抑留すと言えどもあえてこれに拘らず、二品（頼朝）銀作りの猫をもって贈り物に充てられる”

京・鎌倉往還は龍口寺への道標を見送って、すばな通りを抜けて片瀬河口に至る。今日のウォークコースは片瀬江ノ島駅がゴールだが、往還は河口から直角に左折して砂浜道を腰越、小動方向へと行く。満福寺は義経が腰越状を書いた寺。ここから先は、十六夜日記の作者阿仏尼の案内で歩いて行こう（弘安4年（1279）10月16日貴族女性が訴訟を起こすために鎌倉に下る道中記）

まりこ川（酒匂川の名）というかわを、いとくらくてたどりわたる。こよいはさかわというところにとまる（酒匂宿）「あすは

かまくらへいるべし」というなり。29日さかわを出て、はまじをはるばると行。あけはなるる海づらを、いとほそき月出たり。

なぎさによせかえるなみのうえにきりたちて、あまたありつるつりふね見え成りぬ。あずまにてすむ所は、月かげのやつとぞいう

なり。うらちかき山もとにてかぜいとあらし。山でら（極楽寺）のかたはらなれば、なみのおと、松かぜたえず・・・・。

稲村ヶ崎をみて、極楽寺坂を上り、極楽寺から長谷観音の道に出て（大仏切通）、下馬の四つ角は若宮大路である。 完